

# MSA ぱーとなーず



〒468-0015 名古屋市天白区原 2-3507

グランメール KAZU 2B

電話 052(804)4600

FAX 052(893)6620

MAIL msaichi4600@yahoo.co.jp

HP 「マンションサポートあいち」で検索



## マンション管理セミナー& 相談会「大丈夫？あなたの マンション防災対策」開催しました

4月6日（土）、名古屋市の日本特殊陶業市民会館で開催し、管理組合の役員など約30名の方にご参加いただきました。

セミナーでは、当会メンバーのマンション管理士、麻生博さんが、自宅マンションの防災対策をまとめた経験を踏まえ、具体的な事例と計画作成のポイントを講演しました。

主な内容を紹介します。

### 避難所よりも「在宅避難」

いざ地震が起きたとき、事前の準備のあるなしで、被災生活に大きな違いが出てくることを、シミュレーション例を示しながら説明しました。また、マンションは一般的に造りが頑丈なため、「在宅避難」を前提に考えることが有効、と強調しました。



### 専門委員会 手探りで前へ

たとえば、居住者の安否確認に欠かせない名簿作り。個人情報保護との関係に悩んだ結

果、記載事項は最低限に。ただ、非常時だけでなく、普段の管理でも生かせるように考えました。

行動マニュアル作りで心掛けたのは、分かりやすさです。平日の昼間に地震が発生すれば、高齢者や子どもしか部屋にいないことも考えら



れます。そのため、「見ればだれでも分かる」ように、写真を多く付けるなど、経験者ならではの「ノウハウ」を紹介しました。

このほか、清潔とはいええない避難所トイレの写真が、居住者の危機感を高め、対策作りに取り組む弾みになった、とのエピソードも。マンションの住民をまとめていく上で、一つの参考になるのではないのでしょうか。

### 防災対策3つのポイント

基本は「自助」です。「うちのマンションは防災対策がしっかりしているから大丈夫」と各家庭で日ごろ、何も備えをしていなければ思うような在宅避難はできません。

それぞれが、家具の転倒防止や、水・非常食・トイレなどの備蓄に取り組むことが大切です。そのような備えがあってはじめて、居住者が協力し、安全と財産を守る「共助」、マンションとしての防災対策が生きてきます。

次に、**リスクの洗い出し**をしましょう。「ハード」（耐震診断や建物・設備の補強など）、「ソフト」（名簿・組織作りなど）、「ハート」（あいさつ、マナーなど住民の良好な関係）の面からチェックするとよいでしょう。

**専門委員会の進め**  
方も重要です。委員  
の人選は？ 検討期  
間は1年？半年？  
委員会の担当範囲は  
どこまで？



マンションによって、適した形は違ってきます。外部の専門家の力も活用して手作りの対策をまとめ、在宅避難ができるマンションを目指しましょう、と締めくくりました。



実体験に基づく話は、説得力があると好評。うなずいたり、メモをとったりしながら耳を傾ける姿が見られました

セミナーの後は「もっと話を聞きたい」という参加者が集まり、懇談会の形で意見交換し、防災への理解を深めました。

今回のセミナー、相談会に参加していただいた方のアンケートでは、自宅マンションでの備蓄が不足している、との回答が目立ちました。また、建物の立地や耐震性などの把握も十分とはいえない状況がうかがえました。

## サポートあいちができること

防災対策が必要なことは分かっていますが、一体、どこから手をつければいいのか、というマンションも少なくないでしょう。

専門委員会を設置し、話し合いをスタート、理事会に答申、そして総会で決定…大まかな流れは分かっても、実際に進めるには、

防災についての情報や、マンション管理の専門知識、膨大な事務作業と時間が必要です。いくら熱意があっても、個人の力には限界があります。

そんな時、専門家の活用を考えてみませんか。わたしたちマンション管理士が、専門委員会の立ち上げや運営、総会議案書の作成などをお手伝いします。総会決議後の備品購入や名簿作成、防災訓練など、実行段階のサポートも、ご相談ください。まずは説明だけ聞いてみたい、という方も、お気軽にどうぞ。

## 【ミミヨリ】感震ブレーカーって何？

地震で怖い火災の多くは電気が原因です。揺れによる電気機器からの出火や、停電が復旧したときに発生する火災などがあります。

セミナーでは、地震の揺れを感知し自動的に電気の供給を止める「感震ブレーカー」を紹介しました。ブレーカーを切って避難する余裕がないとき、不在時などの出火対策に効果が期待できます。ブレーカーに直接取り付けられる数千円の簡易タイプから、工事が必要なものまで、多くの種類があります。

医療用機器を設置している場合は、バッテリーを準備すること、夜間の照明確保のため懐中電灯などを常備することも大切です。



イラスト©市民防災研究所

## ■お知らせ&編集後記

NPO法人設立から10年を迎える7月をめぐりに、役立つ情報を、より見やすくお伝えできるよう、新しいホームページの開設準備を進めています。ご期待ください。

また、しばらくお休みしていた「ぱーとなーず通信」を復活します。マンションサポートあいちのことを、より身近に感じていただけるような内容を考えています。こんなことを取り上げてほしい、など、ご意見、ご要望等をお寄せください。